

エス・エナジー ジャパン、リパワリング全面支援サービス開始

リパワリング専用PCSを使用し、金融機関と連携

太陽光発電所をリパワリング（改修）による出力増

発電事業が増えている。稼働から10年以上経過すると、太陽光パネルやPCS（パワーコンディショナ）が劣化しているため、最新機種に交換して発電の回復を図るわけだ。特にPCSに関しては、FIT初期に使われた集中型PCSを分散型PCSに換える動きが大半で、PCS世界大手のファウエイ（華為技術）はかねてよりリパワリング用品の開発を進めてきた。

ただ、課題もあるようで、ファウエイデジタルパワー事業本部スマートソーラー営業部の村山慎一シニアアカウントマネージャーは、「リパワリング向けに当社のPCSは多く採用されていますが、発電事業者によ



左からファウエイデジタルパワー事業本部スマートソーラー営業部の村山慎一シニアアカウントマネージャーと東銀リースの篠崎俊彦ストラクチャードファイナンス部長、エス・エナジー日本の梁祐彰社長、ファウエイデジタルパワー事業本部スマートソーラー営業部の林葉子アカウントセールス

っては、資金調達の課題などもあって、リパワリングに踏み切れない方もいらつしゃいます」と状況を語る。そこでファウエイはこのほど、韓・太陽光パネルメーカーの日本法人、エス

・エナジー ジャパンおよび三菱UFJフィナンシャル・グループ傘下の東銀リースと、発電事業者のリパワリングを全面的に支援する新しいスキームを築いたのだ。



同社らは直交流出力を変えずに、既存の架台をそのまま使用してパネルとPCSを置き換えた。上からリパワリング前の発電所とリパワリング後の発電所

3社連携で全面支援

3社間の連携は、ファウエイがリパワリング専用PCSを提供し、エス・エナジー ジャパンが発電シミュレーションの提供と太陽光パネルの供給、許認可申請の変更代行のほか、EPC（設計・調達・建設）業務を請け負う。東銀リースは、

条件によって発電事業者とリース契約を結び、リパワリングに伴う設備投資を支援する。

3社は実証試験を重ねて太陽光パネルの最適な配置や設計を確立し、このほど、エス・エナジー ジャパンのビジネスパートナー、後藤商店が持つ3カ所の高圧太陽光発電所でリパワリングサービスを提供した。具体的には、既設の集中型PCSを出力62・5kWのファウエイ製PCSに換え、太陽光パネルを出力375Wのエス・エナジー製パネルと交換。直交流出力と交流出力

を変えずに、既存の架台をそのまま使用してパネルとPCSを置き換えたのである。

これについて、エス・エナジー ジャパンの梁祐彰社長は、「ファウエイ製PCSと当社の太陽光パネルを組み合わせれば、工期1カ月程度で発電量は約30%向上します。という

パネルと同じサイズのエス・エナジー製パネルを使えば、架台を変更せずに済むため、工期を短縮できる。

東銀リースの篠崎俊彦ストラクチャードファイナンス部長は、「FITの売電単価が30円以上で、残りのFIT売電期間が10年前後ある太陽光発電所のオーナーであれば、当社のリース契約を活用いただけます。これを使えばリパワリングに伴う設備投資の負担を軽減できるはずですよ」と語る。

ファウエイデジタルパワー事業本部スマートソーラー営業部の林葉子アカウントセールスは、「発電事業者が負担なくリパワリングに取り組めるように、今回のソリューションを構築しました。当社のPCSとエス・エナジー製パネルは相性がよく、発電量の向上に寄与します」と語る。

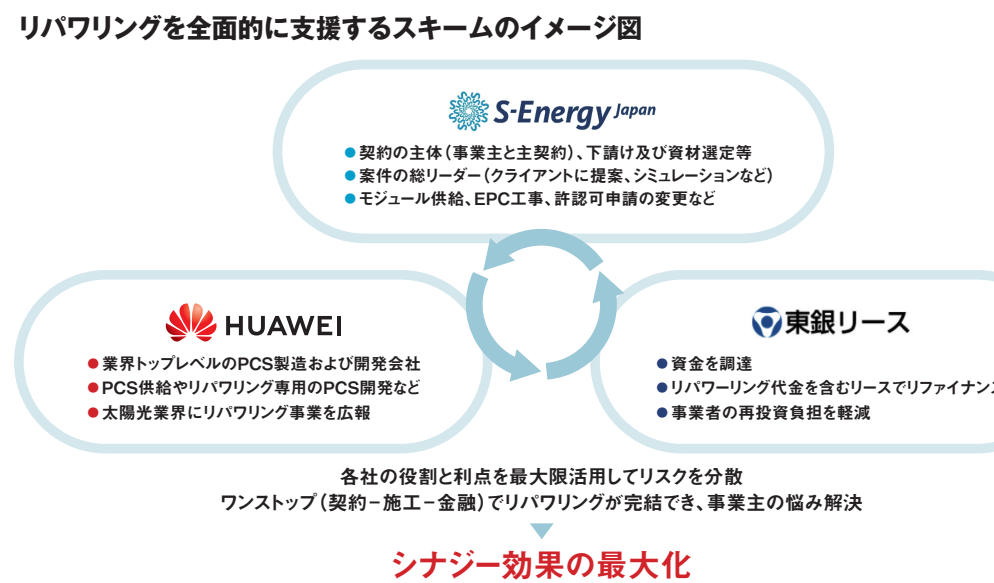
3社は2025年1月末にも発電事業者やEPC企業を対象にリパワリングのセミナーを開催する予定だ。リパワリングに関心のある発電事業者やEPC企業はQRコードを通じて問い合わせよう。



発電所のリパワリングを実施した後藤商店の後藤茂行社長

的には、既設の集中型PCSを出力62・5kWのファウエイ製PCSに換え、太陽光パネルを出力375Wのエス・エナジー製パネルと交換。直交流出力と交流出力

確かに、ファウエイ製PCSは、太陽光発電所のトランスを改造せずに元の出力やシステム電圧に対応している。既設の直流接続箱やキュービクル、ケーブルをそのまま使えるのだ。そのうえで、旧式が多結晶



【お問い合わせ】
S-Energy Japan 株式会社
東京支店 / 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1丁目8-11 錦町ビル6階
Tel. 03-6261-3759

